



# 児童図書研究室だより

令和3年3月5日 発行

Vol. 21

## 2020年 国内子どもの本に関する賞

2020年の国内の主要な児童文学賞で、当館に所蔵している本をまとめました。児童図書研究室にて3月18日(木)から5月18日(火)まで『2020年主な児童文学賞受賞作品』を展示しています。ぜひ、手にとってご覧ください。

賞		タイトル	著者	出版社	出版年	請求記号
日本絵本賞	大賞	くろいの	田中清代/さく	偕成社	2018.10	E/タナ/
	絵本賞	なまえのないねこ	竹下文子/文 町田尚子/絵	小峰書店	2019.4	E/マチ/
		金の鳥・ブルガリアのむかしばなし	八百板洋子/文 さかたきよこ/絵	BL出版	2018.12	E/サカ/
		ばんつさん	たなかひかる/作	ポプラ社	2019.2	E/マチ/
読者賞	(1年間休止)					
坪田謙治文学賞		もうひとつの曲がり角	岩瀬成子/著	講談社	2019.9	C913/イワ/
講談社絵本賞	絵本賞	なまえのないねこ	竹下文子/文 町田尚子/絵	小峰書店	2019.4	E/マチ/
産経児童出版文化賞	大賞	徳治郎とボク	花形みつる/著	理論社	2019.4	C913/ハナ/
	JR賞	きつねの橋	久保田香里/作 佐竹美保/絵	偕成社	2019.9	C913/クホ/
	美術賞	なっちゃんのなつ	伊藤比呂美/文 片山健/絵	福音館書店	2019.6	E/カタ/
	産経新聞社賞	家をせおって歩く かんぜん版	村上慧/作	福音館書店	2019.3	C702/ムラ/
	フジテレビ賞	しるどくる	きくちちき/作	講談社	2019.9	E/キク/
	ニッポン放送賞	ふるさとって呼んでもいいですか 6歳で「移民」になった私の物語	ナディ/著	大月書店	2019.6	334.41/ナテ/19/
	翻訳作品賞	あおいアヒル マンマルさん	リリア/さく 前田まゆみ/やく マック・バーネット/文 ジョン・クラッセン/絵 長谷川義史/訳	主婦の友社 クレヨンハウス	2019.10 2019.5	E/リリ/ E/クラ/
日本児童文学者協会賞		アドリブ	佐藤まどか/著	あすなる書房	2019.10	C913/サ/
日本児童文学者協会新人賞		一富士茄子牛焦げルギー	たなかしん/作・絵	BL出版	2019.11	C913/タナ/
日本児童文芸家協会賞		蝶の羽ばたき、その先へ	森楚こみち/作	小峰書店	2019.10	C913/モリ/
児童文芸新人賞		あの子の秘密	村上雅郁/作 カシワイ/絵	フレーベル館	2019.12	C913/ムラ/
児童文芸幼年文学賞		ムカッやきもちやいた	かさいまり/さく 小泉のみ子/え	くもん出版	2018.10	E/コイ/
児童文芸ノンフィクション文学賞		今年度は選考なし				
小学館児童出版文化賞		「さわるめいる」シリーズ (※シリーズ第3巻の書籍情報を掲載しています)	村山純子/著	小学館	2019.9	E/ムラ/3
		昔はおれと同年だった田中さんとの友情	柳月美智子/作 早川世詩男/絵	小峰書店	2019.8	C913/ヤス/
福島正実記念SF童話賞	大賞	Aロボット、ひと月貸します!	木内南緒/作 丸山ゆき/絵	岩崎書店	2020.8	C913/キウ/
	佳作	夏野菜カレーの会	ちやたに恵美子			
ひろすけ童話賞		(2020年は選考中止)				
小川未明文学賞		ぼくに色くれた真っ黒な絵描き シャ・キ・ベシュ理容店のジョアン	北川佳奈/作 しまぎきジョゼ/絵	学研プラス	2021.2	C913/キタ
講談社絵本新人賞	新人賞	(2020年は選考中止)				
野間児童文芸賞		朔と新	いとうみく/著	講談社	2020.2	C913/イト/
けんぶち絵本の里大賞	大賞	ころべほいのに	ヨシタケシンスケ/作	プロズ新社	2019.6	E/ヨシ/
	びばからず賞	なまえのないねこ	竹下文子/文 町田尚子/絵	小峰書店	2019.4	E/マチ/
		じゃない!	チョーヒカル/作	フレーベル館	2019.8	E/チヨ/
		わたしのわごむはわたさない	ヨシタケシンスケ/作・絵	PHP研究所	2019.11	E/ヨシ/
アルパカ賞	みんなのおすし	はらべこめがね/作	ポプラ社	2019.10	E/ハラ/	
日産童話と絵本のグランプリ	童話の部大賞	なすひは何色?	山本泉/作 山田真奈美/絵	BL出版	2020.12	E/ヤマ/
	絵本の部大賞	くつやさんとおぼけ	いわさきさとこ/作	BL出版	2020.12	E/イワ/

# 令和2年度 第2回ボランティアスキルアップ講座



令和2年12月4日 岡山県立図書館を会場に、令和2年度第2回  
県立図書館ボランティアスキルアップ講座（児童サービス支援コース）  
を開催しました。

## 「本と子どもの幸せな関係」

講師 尾野三千代 氏  
(和光大学非常勤講師、ボランティアおはなしたんぽ代表)

講師の尾野氏はこれまで、教員として、司書として、ボランティアとして、様々な立場から子どもたちに本を手渡してこられました。今回の講演では、尾野氏の実践に基づきながら、子どもとはどのような存在で、どのような要求を持っているのか、そして本が持っている力とはどのようなものなのかを考えることで、子どもと本を結びつけるために私たちができることについて見つめ直すことができました。ここではその一部をご報告します。

まず、子どもとは人生の重荷を背負わない「ゴールデンタイム」を生きている人であるとのご説明がありました。こどもたちは、大きく強く成長したいという願望があり、好奇心や探究心が旺盛で、絵本の中に自分の成長モデルを求めています。定番とされる絵本は、これらの要求に応え、子どもを良い方向へと導く力があるからこそ、長い間評価され、子どもたちからも愛され続けています。しかし、現在では、テレビやインターネットを通して、マイナスの情報が幼い頃から入ってきます。これまで「ゴールデンタイム」を生きる子どもたちには不要だったものが、今の時代では許されないという現状、そして、事前指導や事後フォローなしに、大人の問題を絵本に安易に持ち込むことに対する危機感についてお話がありました。

次に、本の持つ力について、人間力を育むことであると述べられました。これからの人生を生きていく上で芯になる子ども時代に、自分や他人を信じる力を育むような本にたくさん出会うことで、思春期に挫折感を味わったり、不安を感じたりした時の力になります。また、他人の気持ちを想像する力、自分の気持ちを調整する力が身に付くことで、現実とうまく折り合いを付け、協調して生きる力も育まれるとのことでした。

しかし、成長するとともに、それまで本好きだった子どもが本から離れてしまうこともあります。これについて講演の中では、読み聞かせに携わる私たち自身が、未来に遺したいと思うような絵本を、子どもたちに誠実に手渡してきたかを考えなければいけないとのお話がありました。子どもたちに「ウケる」ことに焦点を当てすぎた、テレビや漫画と張り合うような絵本を安易に選んでいないか、そして、大人目線ではない、子どもの成長を心から応援する本を選んでいるかなど、改めて自分の選書や読み聞かせに対する姿勢を振り返ることができました。

また、小学生高学年に向けた読み聞かせを行う際に、年齢に見合う絵本を選ぶのが難しく、選書に悩んだことがある人も多いのではないのでしょうか。これに対して講座の中で紹介されたのが、物語の「なぞり聞かせ」です。「なぞり聞かせ」とは尾野氏による造語で、文章を指でなぞりながら、句点で少し間を取って、子どもの反応に十分な目配りをしながら読み聞かせを行うというものです。高学年頃になると、絵を読み解く力は幼い頃に比べて衰えますが、耳から聞いた物語から場面を想像する力が付いています。この手法について、聴講した参加者の方からは、早速実践してみたいとの声が寄せられました。

### <講座の中で紹介された本>

書名	著者名	出版社
子どもに物語の読み聞かせを	尾野 三千代/編著	児童図書館研究会
ことばの贈りもの	松岡 享子/著	東京子ども図書館
サンタクロースの部屋	松岡 享子/著	こぐま社
こどものひろば	亀村 五郎/編 東 君平/絵	福音館書店
おおかみと七ひきのこやぎ	グリム/〔原作〕 フェリクス・ホフマン/え	福音館書店

子どもたちは、限られた時間や体力の中で、優先順位を決めて活動しています。「本はいいものだ」という信頼感を育み、必要な時が来たらまた本に戻ってきてくれるよう、私たちは一回一回の読み聞かせに、誠実に向き合わなければならないと改めて感じました。子どもに本を手渡す私たちの役割の重要性について見つめ直すきっかけとなった講演会でした。

# 展示「赤羽末吉 生誕110年」

2020年7月17日～11月12日まで、児童図書研究室展示1のスペースで「赤羽末吉 生誕110年」と題して展示を行いました。赤羽末吉は日本人初の国際アンデルセン賞受賞者であり、日本を中心としたアジアの昔話・民話に関する絵本を数多く世に送り出しました。

展示では、赤羽末吉の略年譜で生涯を振り返るとともに、著作の絵本や児童図書、研究書を集めました。展示の様子と関連資料をご紹介します。

## 1 赤羽末吉

1910年東京都神田に生まれ、幼いころから映画、紙芝居、舞台などに親しみ、日本画やデッサンを学びました。1961年、51歳のころに瀬田貞二再話による福音館書店「こどものとも」58号『かさじぞう』でデビュー。日本の伝統的な墨絵の技法を用いたこの絵本は、色彩の鮮やかな絵本が主流だった当時の絵本界に大きな一石を投じました。その後も精力的に取材、執筆を続け、サンケイ児童出版文化賞、講談社出版文化賞、小学館絵画賞といった数々の賞を受賞し、1980年には、日本初の国際アンデルセン賞を受賞しました。日本の絵本が国際的に評価されたことは、日本の絵本界に大きな喜びと希望を与えました。高い理想と向上心を持ち続けた赤羽末吉の絵本は、1990年に80歳で亡くなった後も、多くの人々に読み継がれ、親しまれています。

## 2 代表的な作品

### 『かさじぞう』(瀬田貞二／文 1961年 福音館書店)

2年近くを制作に費やして完成した赤羽末吉のデビュー作です。赤羽は22歳の時から約15年に渡って暮らした満州の地で、日本の雪国への憧れを抱くようになり、帰国後に秋田や山形、新潟などを訪れて取材を行いました。墨絵の表現と和紙の質感によって、水気を含んだ雪の様子が効果的に表現されている本作は、赤羽の情熱と取材の成果が十分に発揮されています。



### 『スーホの白い馬』(大塚勇三／再話 1967年 福音館書店)

1943年に、内蒙古(現在の中国内モンゴル自治区)を訪れた赤羽は、その風景や風土のスケールの大きさに感銘を受け、日本の子どもたちにもそれを伝えたい、分かち合いたいという思いで、『スーホの白い馬』を完成させました。その後も、満州や内蒙古での体験を元に、『王さまと九人のきょうだい』、『いしになったかりゅうど』など、中国やモンゴルの民話絵本を、丁寧かつ誠実に描いています。また、1963年に出版された『スーホの白い馬』は、1961年出版「こどものとも」67号『スーホのしろいうま』の絵から全て描き直されており、デビュー2作目であるこの作品を「思うようにかけなかった」と振り返った赤羽のこだわりによって生まれた一冊です。

### 『おおきなおおきなおいも』(1972年 福音館書店)

雨のせいでいもほりの予定が延びてしまった東京の鶴巻幼稚園の子どもたちが、8枚の模造紙をつなげて大きな大きないもを描いたという、実際にあったエピソードを元にした絵本です。子どもたちの、いもほりが待ち遠しくてたまらないという期待感と、掘り出した大きないもをどうするか思いを巡らせる豊かな想像力が、簡略化された線と鮮やかな紫色から生き生きと伝わってきます。幼稚園の実践報告を聞いて感銘を受けた赤羽自らが絵本化を申し出て制作された一冊で、これまでの赤羽の絵本のイメージとは異なるタッチで描かれたユニークな作品です。

#### <参考文献>

- 赤羽末吉／絵『赤羽末吉の絵本』講談社 2010.5
- コロナ・ブックス編集部／編『赤羽末吉 絵本への一本道』平凡社 2020.5
- 赤羽茂乃／著『絵本画家 赤羽末吉』福音館書店 2020.4
- 赤羽末吉／著『絵本よもやま話』偕成社 1983.12
- 絵本学会機関誌編集委員会／編集『絵本 BOOK END 2010』絵本学会 2010.10



# 児童図書研究書の紹介

2020年に発行された児童図書研究書のうち、下記の6点をご紹介します。

## 『人生の1冊の絵本』

柳田 邦男／著 岩波書店／発行 2020年 請求記号 019.53/ヤ20/ 資料番号 0015186737

本書では、ノンフィクション作家の柳田邦男氏が約150冊の絵本を紹介しています。書影、ストーリー、絵の魅力、制作者の思いや世に出た背景などともに、その絵本のテーマに迫るための読みの視点がまとめられています。柳田氏は「絵本は、子どもが読んで理解できるだけでなく、大人が自らの人生経験やここにかかえている問題を重ねつつ、じっくり読むと、小説などとは違う独特の深い味わいがある」と述べ、子どもだけでなく大人が読みたいと思える作品をたくさん紹介しています。お気に入りの一冊を見つけて、自分自身の体験や想いと重ね合わせながら読んでみてはいかがでしょうか。

## 『ディック・ブルーナ “ミッフィー”を生んだ絵本作家』

ブルース・イングマン／著、ラモーナ・レイヒル／著、北川 玲／訳 河出書房新社／発行 2020年  
請求記号 726.601/カ20/ 資料番号 0015282213

世界中で愛されているうさぎのキャラクター「ミッフィー」の絵本(32冊)は、50か国語以上に翻訳され、8500万部以上も売れました。ミッフィーが誕生してから65年が過ぎますが、この本では作者ブルーナの生涯やミッフィー誕生のお話などが丁寧に説明されています。ブルーナのデザインしたイラストや当時を物語る写真など、未公開資料が多数収録されています。ブルーナの、洗練されつつも愛らしいイラストの世界を堪能できる1冊です。

## 『赤羽末吉 絵本への一本道』

コロナ・ブックス編集部／編 平凡社／発行 2020年 請求記号 726.601/カ20/ 資料番号 0015295611

2020年で生誕110年を迎えた赤羽末吉。そのデビューは50歳と、決して早くはありませんでしたが、70歳で日本初の国際アンデルセン賞を受賞し、80歳で亡くなるまでの間に数々の名作絵本を生み出しました。この本では、そんな赤羽末吉の生涯や、絵本の製作背景等が紹介されています。自分の絵を「花開くまでにはまだ間がありそう。一層の努力を期待したい。」と評した赤羽末吉の、絵本に対する高い理想と向上心が感じられる一冊です。

## 『絵本で世界を学ぼう!』

吉井 潤／著 柏原 寛一／著 青弓社／発行 2020年 請求記号 019.53/ヨ20/ 資料番号 0015537368

この本は、世界の105の国に関連する絵本を紹介したガイドブックです。その国の昔話や民話を元にしたもの、美しい自然や食べ物を題材にしたもの、民族や伝記を扱ったものなど、様々な絵本が取り上げられています。紹介文と表紙のほか、国旗や人口、首都など、国の基本情報も掲載されていて、子どもたちが絵本から世界を知るきっかけになります。図書館員や小学校・幼稚園の教諭、保育士など、絵本に携わる方々には、読み聞かせや展示に役立つ一冊です。

## 『だれも知らないレオ・レオーニ』

森泉 文美／著 松岡 希代子／著 玄光社／発行 2020年 請求記号 726.601/カ20/ 資料番号 0015568272

『スイミー』や『フレデリック』などの作品で知られているレオ・レオーニ。彼の絵本作家としてのデビューは49歳と、決して早くはありませんでしたが、彼の履歴書には、建築家、デザイナー、作家など様々な職業が並んでおり、多彩な才能の持ち主でした。絵本作家としてのデビュー作『あおくときいろちゃん』は、彼の2人の幼い孫に、即興で作り上げて語ったお話から生まれたそうです。誰もが知っている有名な絵本の制作背景や、作品に込められた思いを知ることができるとともに、これまであまり知られていなかった、広告、絵画、彫刻などの、レオーニの多彩な芸術活動にもふれることができる一冊です。

## 『世界の児童文学をめぐる旅』

池田 正孝／著 エクスナレッジ／発行 2020年 請求記号 909.3/ヤ20/ 資料番号 0015627813

この本は、イギリスを中心とした児童文学の舞台を、美しい写真と作品の制作背景を交えて紹介したものです。物語の生み出された土地の風景や歴史、作者の思いを知ることで、新たな視点から作品を楽しむことができます。『クマのプーさん』や『不思議の国のアリス』など、取り上げられているのはどれも有名な作品ですが、この本を読んだ後には、きっとまた読み返したくなることでしょう。

発行日 令和3年3月5日発行

発行 岡山県立図書館 サービス第一課 児童資料班

〒700-0823 岡山県岡山市北区丸の内2-6-30 Tel : 086-224-1286・1288 Fax : 086-224-1208